

所属病院外において新型コロナウイルス感染症の救援活動を行った 医療従事者の心的外傷後ストレス症状に関する調査

1. 発表者：

- 浅岡 紘季（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野
修士課程 2 年）
- 小井土 雄一（国立病院機構本部 DMAT 事務局）
- 河嶋 譲（国立病院機構本部 DMAT 事務局）
- 池田 美樹（桜美林大学リベラルアーツ学群 准教授）
- 宮本 有紀（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 精神看護学分野
准教授）
- 西 大輔（東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 精神保健学分野
准教授）

2. 発表のポイント：

- ◆所属病院外において新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の救援活動を行った医療従事者において、身体的および精神的疲労と周トラウマ期の精神的苦痛（注1）とが、心的外傷後ストレス障害（PTSD）（注2）症状と関連することが認められました。
- ◆COVID-19 等の新興感染症の救援活動を行う医療従事者において、メンタルヘルスの問題を防止するには救援活動中においてもセルフケアのための十分な時間を確保できることが重要であることが示唆されました。
- ◆本研究結果は、救援活動後に PTSD 症状が強く現れる危険性が高い救援者の早期発見や、救援活動後の PTSD 予防策の構築に寄与することが期待されます。

3. 発表概要：

これまでの研究から病院内における COVID-19 等の新興感染症に対応した医療従事者のメンタルヘルスの問題が報告されていますが、所属病院外において COVID-19 等の新興感染症に対応した医療従事者のメンタルヘルスの状態やメンタルヘルスの悪化の関連要因は明らかにされていませんでした。

東京大学大学院医学系研究科精神保健学・看護学分野の浅岡紘季大学院生（修士課程 2 年）、西大輔准教授らは、DMAT（注3）事務局および DPAT（注4）事務局と共同で、2019 年 2 月から 3 月にかけて所属病院外で COVID-19 の救援活動を行った災害派遣医療チーム（DMAT）および災害派遣精神医療チーム（DPAT）に所属する医療従事者を対象とした調査を行いました。調査は救援活動後の 3 月 11 日から 4 月 2 日に実施され、年齢や性別に加えて、身体的・精神的疲労などの新興感染症に対応する際のストレス、周トラウマ期の精神的苦痛、派遣活動中の COVID-19 患者との接触など先行研究から PTSD 症状と関連があると考えられている要因についてアンケート調査を行いました。その結果、病院外にて COVID-19 の救援活動を行った医療従事者において身体的および精神的疲労と周トラウマ期の精神的苦痛とが PTSD 症状と関連することが示されました。加えて、DMAT 隊員は DPAT 隊員と比較して PTSD 症状との強い関連が認められました。

本研究は、所属病院外において COVID-19 等の新興感染症の救援活動を行った医療従事者のメンタルヘルスの状態と悪化の関連要因を世界で初めて調査した研究です。本研究成果は、新興感染症の救援活動後に PTSD 症状が強く現れる危険性が高い救援者の早期発見や、救援活動後の PTSD 予防策の構築に寄与することが期待されます。なお、本成果は「Psychiatry and Clinical Neurosciences」（オンライン版：2020 年 7 月 21 日）に掲載されました。

4. 発表内容：

【研究の背景・先行研究における問題点】

世界中で COVID-19 の感染が拡大しており、日本においても COVID-19 の感染拡大は重要な公衆衛生の問題となっています。2019 年 2 月から 3 月にかけて DMAT および DPAT に所属するわが国の医療従事者は、病院外の派遣救援活動としてクルーズ船や帰国者滞在施設等において COVID-19 を罹患している可能性のある人の治療や検疫を実施しました。これまでの先行研究から病院内における COVID-19 等の新興感染症に対応した医療従事者において PTSD 症状などのメンタルヘルスの問題が報告されていますが、所属病院外において COVID-19 等の新興感染症に対応した医療従事者のメンタルヘルスの状態やメンタルヘルスの悪化の関連要因は明らかにされていませんでした。

【研究内容】

東京大学大学院医学系研究科精神保健学・看護学分野の浅岡紘季大学院生、西大輔准教授らは DMAT 事務局および DPAT 事務局と共同で、2019 年 2 月から 3 月にかけて所属病院外にて COVID-19 の救援活動を行った DMAT および DPAT に所属する医療従事者を対象とした調査を行いました。調査は救援活動後の 3 月 11 日から 4 月 2 日に実施され、PTSD 症状と関連があると考えられる要因についてアンケート調査を行いました。PTSD 症状の関連要因について統計学的手法によって検討しました。

所属病院外にて COVID-19 の救援活動を行った DMAT および DPAT 隊員 807 名のうち 414 名から回答が得られ、全ての質問に回答した 331 名を解析対象者（男性 74.6%、平均年齢 43.0 歳、医師 31.1%、看護師 30.5%、業務調整員 38.4%）としました。救援活動中に COVID-19 患者と接触した参加者は 105 名（31.7%）でした。病院外にて COVID-19 の救援活動を行った医療従事者において身体的および精神的疲労と周トラウマ期の精神的苦痛とが PTSD 症状と関連することが示されました。加えて、DMAT 隊員は DPAT 隊員と比較して PTSD 症状との強い関連が認められました。DMAT 隊員と DPAT 隊員の救援活動中の業務内容を考慮すると、救援活動中に感染症を罹患している可能性のある人と身体的な接触をすることは PTSD 症状と関連する可能性が示唆されました。本研究結果から、COVID-19 等の新興感染症の救援活動を行う医療従事者においてメンタルヘルスの問題を防止するには救援活動中においてもセルフケアのための十分な時間を確保できることが重要であることが示唆されました。

【社会的意義・今後の予定】

本研究成果は、新興感染症の救援活動後に PTSD 症状が強く現れる危険性が高い救援者の早期発見や、救援活動後の PTSD 予防策の構築に寄与することが期待されます。今後は、前向きコホート研究等を進めていき、COVID-19 の対応を行った医療従事者のメンタルヘルスの状態やメンタルヘルスの関連要因について長期的な調査をしていく予定です。

5. 発表雑誌：

雑誌名：「Psychiatry and Clinical Neurosciences」（オンライン版：2020年7月21日）

論文タイトル：Posttraumatic stress symptoms among medical rescue workers exposed to COVID-19 in Japan

著者：Hiroki Asaoka, Yuichi Koido, Yuzuru Kawashima, Miki Ikeda, Yuki Miyamoto, Daisuke Nishi

6. 問い合わせ先：

東京大学大学院医学系研究科

精神保健学分野

准教授 西 大輔（にし だいすけ）

TEL：03-5841-3612

FAX：03-5841-3392

e-mail：d-nishi@m.u-tokyo.ac.jp

7. 用語解説：

（注1）周トラウマ期の精神的苦痛

心的外傷体験の最中とその直後の時期の、恐怖や無力感などの精神的苦痛。

（注2）心的外傷後ストレス障害（PTSD）

恐ろしい体験や圧倒的な体験から精神的に外傷を受け、それによって強い感情的反応が症状として現れ、長期的に持続する障害。戦争、災害、事故、強盗、幼児期の虐待などがトラウマ的体験として挙げられる。PTSDでは、その種の出来事に対して、恐怖、無力感、戦慄などの強い感情的反応を伴い、長い年月を経た後にもこのようなストレスに対応するような特徴的な症状が見られる。恐怖体験に類似する、もしくは連想させるようなものや人に対しても強い拒否を示し、社会生活に支障が出る。

（注3）災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team: DMAT）

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字を取ってDMATと呼ばれている。専門的な訓練を受けた医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職および事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場の急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持つ。

（注4）災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team：DPAT）

DPATとは自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的な研修・訓練を受けたチームである。Disaster Psychiatric Assistance Teamの頭文字を取ってDPATと呼ばれている。医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職および事務職員）で構成される。